

令和5年度 北海道教育大学教育学部教員養成課程 入学者選抜

総合型選抜 教員養成特別入試（札幌校）

「講義」 出題の意図

今日、私たちは、高度なテクノロジーに支えられた機器を用いて、多様な体験を容易に実現することができるようになってきている。インターネットや通信機器の発達、遠隔地どうしの人々のコミュニケーションを容易にし、映像機器の発達やVRなどの登場は、多様な疑似体験を可能にしている。現代では、出来事が発生している「その場」に居合わせなくても、あたかもリアルに「その場」に立ち会っているかのように感じつつ、その出来事を体験できるようになっている。

現代生活においては、上記のような、何らかの「装置を通した体験」は極めて多くなった。「装置を通した体験」は利便性に優れているだけではなく、人間の諸活動の新たな可能性も創出している。私たちの生活では、「装置を通した体験」に依存する割合が増加しているが、一方で、「装置を通さない体験」も、リアルで「生の」体験として、人間にとって重要な体験である。

私たちの日常生活における二種類の体験（「装置を通さない体験」「装置を通した体験」）に気づき、その特徴を見つめ考えてみるのが、本講義の眼目である。

講義では、「生演奏で音楽を聴くこと」と「装置によって再生された音楽を聴くこと」の、二種類の体験について比較しつつ考えていく。19世紀後半に蓄音機が登場して以降、テクノロジーの発展により、様々な音楽再生装置が開発されてきた。再生される音質が改良され、リアルで臨場感のあるサウンドを体験できるようになり、多様な音楽再生装置の登場は、人々の音楽行動や音楽聴取スタイルも変化させている。

この講義を通して、「生演奏で音楽を聴くこと」と「装置によって再生された音楽を聴くこと」のそれぞれの特徴を考えることで、日常生活における様々な体験を考える契機になることを期待している。音楽を聴くことを事例として、「装置を通さない体験」「装置を通した体験」の二種類の体験について、各自が自分事として捉え、「グループ討論」「レポート」につなげられることに配慮し講義内容を作成した。